

34

b11B.1231

條約局 昭和四年二月四日

臺灣總督官房文書課長代理 平島敏夫

松本外務事務官殿

條約第二號

昭和四年貳月拾參日接受



別紙附



文外第一二九號 在臺灣佛國軍人墓地移管式舉行ノ爲佛國大

使及同極東艦隊司令官來臺ノ記送附ノ件

基隆及馬公所在佛國軍人墓地移管式舉行ノ爲ノ發ニ來臺セル佛國大使並同
極東艦隊司令官一行ノ本島滞在中ノ概況ヲ記シタル別冊複寫刷附屬書ト共
ニ御參考迄ニ茲ニ及送付候也

34

611B.1231

條約同 昭和四年二月四日

條約局長

臺灣總督官房文書課長代理 平島

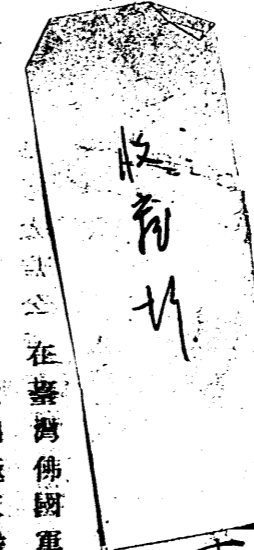
平島 敏夫



昭和四年貳月拾參日接受

別紙添附

事務官殿



在臺灣佛國軍人墓地移管式舉行ノ爲佛國大使及同使及同極東艦隊司令官來臺ノ記送附ノ件

甚隆及馬公所在佛國軍人墓地移管式舉行ノ爲及發ニ來臺セル佛國大使並同極東艦隊司令官一行ノ本島滞在中ノ概況ヲ記シタル別冊複寫刷附屬書ト共ニ御參考迄ニ茲ニ及送付候也

基隆名ハ一濱及澎湖島ニ於テ佛蘭西軍人
墓地移管式奉行ノ為メ佛國大使トシテ
及佛國極東艦隊司令官ストツ提督巡洋
艦「シユルミシエ」ト塔乗末直屋ノ記

基隆名ハ一濱及澎湖島ニ於テ佛蘭西軍人
墓地移管式奉行ノ為メ佛國大使トシテ
及佛國極東艦隊司令官ストツ提督巡洋
艦「シユルミシエ」ト塔乗末直屋ノ記

昭和三年十二月二十八日(金曜日)

「ミシエール」基隆入港

ド、ビー大使及ストッツ提督ノ搭乗セル
「ミシエール」ハ午前九時基隆入港新
岸墾ニ假泊ス

九時半平島秘書官ハ總督代理トシテ
今村副官ハ軍司令官代理トシテ、中村海
軍駐在武官、森翻譯官、松本外務事務
官ト共ニ同艦ニ大使及提督ヲ訪問シ
同時ニ基隆側ヨリハ基隆要塞司令
官代理トシテ高名要塞司令部參謀
加藤市尹、梅田港務官、織本基隆
警備署長、在基隆直隷津日夕新

報社、各湾新聞社、臺南新報社各
通信員等夫々同艦ヲ訪問ス、ドビー
大使及ストッツ提督ハ幕僚各將校
艦長、副長等ト共ニ一同ヲ應接室ニ
招シ、三鞭ノ杯ヲ等分テ出迎ヲ謝シ相互
ノ健康ヲ祝ス

次テドビー大使、ストッツ提督幕
僚各士官列席上、督府官憲ト叙禮
交換、移管式々次、此北觀光及島
内旅行其他碇泊中ノ諸行動ニ関シ
詳細打合ノ結果附屬書Aヲ通リ
日程ヲ定メ平島秘書官其他ハ午後一
時同艦ヲ辞去ス

大使 提督及随員並「シユルミシエ」兼
 組將校氏名左ノ通り
 駐日佛國大使 ロベルト・ビイー
 大使館附海軍武官(中佐) ロザチ
 大使館外交官補 シア、ペーレン

極東艦隊司令官(少将) ストツツ

参謀長(中佐) シヨムロ、ラモト

軍醫中佐 カジヌーワ

主計少佐 ホ

機関少佐 カスタニエ

少佐 ルシユント

大尉 セー、ル

大尉 ド、バダンス

中尉 デルブローユ

中尉 コシヤン

大尉 フヴァン

中佐 フル

少佐 シユラント

大尉 アマンリニユ

中佐 ドアニオン

少佐 ル、コント

大尉 フアルト

中尉 カスタン

少佐 バ

機関大尉

ユ

少尉	ラムー	ル	3
少尉	レゾ	オール	ル
少尉	マリ	ヨ	ド
少尉	ミ	リ	シ
少尉	ソ	グ	エ
少尉	ロ	ン	シ
主計中尉	ロ	ラ	シ
機関中尉	ル	カ	シ
機関中尉	ル	カ	シ
軍醫中尉	バ	ド	コ
軍醫中尉	バ	ド	コ
中尉	ク	ニ	ト
中尉	ク	ニ	ト
中尉	ア	ベ	ー
中尉	ア	ベ	ー
大尉	ラ	ツ	サ
大尉	ラ	ツ	サ
大尉	グ	エ	ル
大尉	グ	エ	ル
大尉	セ	ル	タ
大尉	セ	ル	タ
大尉	ル	ツ	セ
大尉	ル	ツ	セ

計三十七名

(佛元原名附屬B類表ノ通)

以日ストツツ提督外二名ハ午後市役所
 及松本外務事務官ト墓地式場ノ下檢分ヲ為ス

十二月二十九日(土曜日)

大使及提督、總督、軍司令官ヲ正式訪問
 ト、ヒトト大使、ストツツ提督、參謀長
 副官、艦長、大使館附海軍武官、外
 交官補ハ九時十四分至北駅著、駅頭
 出迎、河原田總務長官、大久保發務
 局長、市常事專賣局長、高橋若井

知事、猪俣、内務部長、内海、警務部長、
 田端、北市尹、平島、秘書官、中村、海軍
 武官、森、翻譯官、松本、外務事務官、
 小挨拶ヲ交シタル後、駅前ニ待テ受ケタ
 ル自動車ニ、大使、提督同乗、一先ツ
 鐵道ホテルニ入り、小憩後、四時、總
 督官邸ニ川村總督ヲ正式訪問シ、十
 時五分、辞去、順路軍司令部ニ菱刈軍
 司令官ヲ正式訪問シ、十時、鐵道ホテルニ引
 返セリ。

總督主催午餐

午後零時、牛川村總督ハ廣容トシテ大使、
 提督、艦長、外八名ヲ總督官邸ニ開催ノ
 午餐ニ招待ス。出席者左ノ通り、但シ
 大使、提督及艦長以外ノ八名ハ先方
 ノ撰擇ニ任ジタリ

- 主賓
- ド、ビー、大使
 - 参謀長、ヨロ、ラモト
 - 副長、ブル、ン
 - 外交官補、シ、バ、ー、ン
 - ル、ニ、ト、ン、大尉
 - テ、ハ、ン、ス、大尉(提督副官)
 - 外ニ以時来、高、中、ノ、ト、ラ、サ、ル、子、爵、夫人
 - (官内省出仕)ヲ總督ヨリ特ニ招待ス
 - 陪賓、米、國、領、事、代、理、人、カ、サ、キ、ト、ネ、ト、ン
 - スト、ツ、提督
 - 艦長、ド、グ、ア、ン
 - 大使、海軍、大尉、口、サ、テ
 - カ、ノ、ス、ト、ン、軍、醫、中、佐
 - セ、ー、ル、大尉

英國領事代理 アーサー、カウリー
和蘭名譽副領事 シー、リンドグセルグ

河原田總務局長官 幣原大學總長

豊田内務局長官 石黒文教局長

内田殖産局長官 大久保警務局長

富田財務局長官 常吉專賣局長

高橋名北何知事 後藤高等法院長

岩松^{高等}法院檢察官長 田端名北市尹

菱川軍司令官 佐藤參謀長

介村副官 中村海軍武官

中山高級副官

松本外務事務官

河村^{臺灣}日日新報社長 日比製鐵會社社長

高木電力會社社長 倉本名灣銀行理事

安藤名地辯護士會長 草頭 柴

古賀 三千人

主人側 川村總督、平島秘書官、三宅秘書官

皆川税関事務官、森翻譯官

席上總督ノ歡迎ノ辞アリ(所屬者ニ對シ
參照)森翻譯官之ヲ通譯シ右ニ對シ
大使、答辭アリ、松本外務事務官之ヲ
通譯ス(大使答辭原稿ニシテ)
ト、ビー大使、ストツツ提督其他ハ
午後二時半總督官邸ヲ辭シ、鐵道

總務長官主催日本式歓迎宴

ホテルニ入りタル後、自由ニ市内ヲ視察ス
ホトビイ大使、ストイツ提督ハ午後六時
河原田總務長官主催ノ梅屋敷ニ於ケル
歓迎宴ニ臨席ス、出席者左ノ通り。
主賓

陪賓

豊田内務局長 石黒文教局長
内田殖産局長 大久保警務局長
官田財務局長 常吉專賣局長
自勢鐵道部長 高橋台北州知事
後藤高等法院長 岩松田檢察廳長

田端治北市尹

幣原大藏總長 中山高級副官
松本外務事務官 加藤基隆市尹
佐藤參謀長

梅田港務官 日比製鐵會社社長
河村名日新報社長 速藤電力會社副社長
高木電力會社社長 森台北副會長
久原台灣銀行理事

安保台北辯護士會長 古賀三千人
草野顯榮 高須時太郎
小寺新一 平島秘書官
主人側 河原田總務長官 三宅秘書官

山本 平兵衛
皆川 税関事務官
森 翻訳官

主客共ニ飲ヲ盡シ午後十時半梅屋敷餅
去、同十時甲分名並發列車ヲ大使提督
一行帰艦ス

十二月三十日(日曜日)

總督、軍司令官ノ答訪

午前十時十分川村總督ハ河原田長官
平島、三宅兩秘書官、中村海軍武官、
森 翻訳官、松本外務事務官ヲ隨ハ
四上、ミシエト艦上ニト、ビイー大使、ネトツ
提督ヲ答訪、引續キ菱刈軍司令官

官ハ佐藤軍參謀長、中少高級副官、今
村副官ヲ隨ヘテ答訪、艦内應接室
ニ於テ夫々叙禮餅交換アリ、約十分
後、川村總督ハ君カ代ノ奏樂裡ニ退
艦シタルニ、佛艦將士ハ登艦禮ヲ行ヒ
十七發ノ禮砲ヲ發シ、終イテ軍司令官
モ同儀禮裡ニ退艦シ、佛艦ハ之ニ對シ十
五發ノ禮砲ヲ發射ス

移管式

午前十時四十分、ビイー大使、ストツツ提
督及各隨員、艦長其他將校二十余
名、武裝水兵五十名「ミシエト」軍樂隊等
ハ移管式々場ニクルト濱佛國軍人墓

地先着ス

式場ハ清浄ニ掃除サレ、東北隅ニ五ノ
紀念碑ニ向ケテ大テント張附合テ設ケ、
周圍ハ幔幕ヲ張廻シ、紀念碑ノ周圍
ニ左記諸官憲、民間有志ヨリ
贈テシタル三十七ヶノ花環ヲ供ス。

トビイノ佛國大使

ネツツ提督

川村台湾總督

菱刈軍司令官

河原田總務長官

田中外務大臣

田中總理大臣

岡田海軍大臣

白川陸軍大臣

鈴木海軍參謀總長

鈴木海軍司令官

英國領事代理了士長カウレ上

總督府各局長一同

高等法院長

交通部長

若松法務檢察官長

高橋台尚知事

宇野地方法院長

生駒台中知事

氷山新井知事

大田宮尾知事

片山台南知事

中田花蓮港廳長

齊藤台東廳長

田端台北方尹

加藤基隆市尹

松田基隆要港司令官

愛國婦人會台湾支部

赤十字社台湾支部

華字社特志台湾支部

看護婦人會台湾支部

台清教育會

台北商工會

台北辯護士会
台湾日日新報社
台湾銀行
台湾電力会社
台湾製糖会社

土時川村總督、菱川軍司令官、河原田
長官臨場、紀念碑ニ向ツテ右手ニ
トビノ一大使、ストツツ提督、トツアン
艦長、左手ニ夫々着席ス
紀念碑ノ西側ニ各一ケ小隊ノ佛國海
軍儀仗兵整列シ、碑ニ向ツテ参列
督府諸官、台湾軍將校、台北、基隆
民間代表者、著席シ、其ノ背後

ニ佛國將校及武裝セザル水兵多数並列
左端ニ軍樂隊位置ス
臨席者ノ著席終リテ、移管式ハ左
ノ順序ニテ進メラル

一總督、大使、軍司令官、提督ノ花環
ヲ順次碑前ニ配列ス
一大使式辞 (附参事 D 席参照)

一總督答辞 (附参事 E 席参照)
森 翻譯官通訳

一宗教的儀式
「ミゼレ」牧師、フラゼレ、師、碑
前進ニ五分間祈禱ス

一、ストイツ提督ノ告別式(豫定)
一、佛艦隊佛國ノ歌ヲ奏シ、
斯クシテ基隆澎湖島ノ在佛國軍人
墓地ノ管理ハ佛國政府ノ手ヨリ永
久ニ日本政府ニ移ルベシ
十二時移設式終了、總督軍司令部
以下退場ス

シエール 艦上ノアットホーム
午後二時半ヨリ五時半迄
艦上ニテアットホーム園催セラレ、總督軍
司令部以下在基隆及台北官民二百名
(西夫人五十名)出席ス

澎湖島ニ於ケル儀式

之ヨリ先川村總督ハ和田秘書官ヲ澎湖島ニ派シ、基隆ニ於ケル舉式ノ當日午前十時ヨリ全島ニ於ケル「ケールベール」提督紀念碑前ニ於テ移管式ヲ行ハシム。碑前ニ花ヲ環テ供ス。川村台灣總督、河原田總務長官、濱野馬公要港部司令官、作田澎湖島要塞司令官、兒玉澎湖廳長、三浦馬公街長、和田秘書官ハ總督代理トシテ遠前、辞（附屬書ニテ辨参照）ヲ告シ、兒玉廳長、式辞アリ（附屬書ニテ辨参照）

参列者左ノ通り、基隆、基隆總督代理、和田秘書官、濱野馬公要港部司令官、作田澎湖島要塞司令官、兒玉澎湖廳長、井出馬公街協議會會員、三浦馬公街長、宇野馬公小學校長、久本馬公第一公學校長、其他約六百名

午後一時全地風櫃尾ニ於テ佛國軍人墓地ニ於テ前同ノ供物及式次ニテ移管式ヲ行ヒ、廳以下百余名参列ス

十二月三十一日（月曜日）

大使、提督以下二十五名台北近郊視察

淡水史蹟視察

午前九時十四分台北駅着、待て置かれ八分
自動車ニ分乗中村海軍武官森翻譯
官松本外務事務官案内ノ為メ同伴
水源地視察、圓山台灣神社参拝後草
山温泉ニ到リ貴賓館ニ於テ豫メ鉄
道ホテルヨリ差廻シ、辨當ヲ披キ小憩。

午後一時草山發、梅谷道路ヲ経テ北投
ニ下リ、地獄谷視察後淡水ニ赴キ、英國
領事館訪問、大使提督一行ハ全館屋
上露台ニ登リ森翻譯官ノ持参セルカ
ノール大尉著「佛蘭西ノ台灣遠征」ト
稱スル書籍中、淡水攻撃ノ頁ヲ披キ

地圖ニ照シテ眼下ニ其史蹟ヲ指呼シ
同追懐ノ情ニ堪エザルモノノ如ク低徊暫
時ニシテ露台ヲ降り領事夫妻ノ用意
ニケル茶菓ヲ喫シ六時台北ニ歸リ鐵道
ホテルニ入ル

中南部視察旅行

ドビーイ大使、ストツ提督及左記隨員
午後九時二十四分台北駅発特別車ニテ
中南部視察旅行ノ途ニ上ル

ドラ、ラ、サル子爵夫人（臨時加入）
○ザケ大使館附海軍武官
バーレン外交官補

ラモット参謀長
カゾノリ中尉
ドバダンス大尉
ドヴァン艦長
クニーク中尉

昭和四年一月一日(火曜日)

日月潭視察 午前四時ニ水取着、乗換六
時半発、九時外車堤着、台車及徒歩
ニテ午後一時日月潭湖畔水社着、小
慈後化蕃社ヲ視察、三時水社ニ歸リ、
涵碧樓ニ入ル

一月二日(水曜日) 午前九時水社発、午後五時

嘉義着、嘉義ホテルニ入ル

一月三日(木曜日)

阿里山視察 午前七時嘉義北門駅発、
午後二時半阿里山線終点、眠日着、
伐木、水登リ、集材、運材等、実地作業
ヲ視察、五時沼ノ平ニ引還シ、阿里山園
林所俱樂部ニ入ル

一月四日(金曜日)

午前八時半俱樂部発、祝山ヨリ新高山
一帯ノ山容ヲ遠望シ、下山十時沼ノ平発

午後三時嘉義北門馱着、營林所製材所作業ヲ視察
午後十一時嘉義發

一月五日(土曜日)

午前七時基隆着帰艦

總督、軍司令官ニ告別挨拶

午後五時十八分台北馱着、總督官邸ニ川村總督ヲ軍司令部ニ菱刈軍司令官ヲ訪問、夫々告別ノ挨拶ヲ為ス

官民合同招宴

河原田長官、佐藤參謀長、高橋台北州知事、田端台北市尹、中村海軍駐在武官、高水電力社長、久米台銀理事、河村台日社長、辜顯榮、林熊徵ノ諸氏發起人トナリ官民合同招宴午後六時半ヨリ鉄道ホテルニ開催セラレ、^{出席者}發起人ハ外總督、軍司令官其他官民、^{總テ}重ナルモノ六十九名、本席、主賓トシテドビー大使、ストツ提督、幕僚隨員拾一名、デガートコースニ入ルヤ高水社長、發起人一同ヲ代表シ挨拶ノ辞ヲ述べ(附屬書I、詳參照)之ニ對シ大使、答

辞アリ(附属書丁辨参照)。八時散会
大使提督ハ八時四十八分台北駅発列
車ニテ帰艦ス

一月六(日)曜日

午前九時「ツエ」シエヒト「ハ」港当時
訪問シタル諸官憲見送裡ニ基隆
ヲ出帆ス
同日午後トビイ大使ヨリ川村總督
宛(附属書K辨参照)謝電ヲ送り
越之右ニ対シ川村總督ヨリ(附属
書E辨参照)返電ヲ発シタリ



附
属
書

REEL No. A-1048

0188

アジア歴史資料センター

A
辨

PROGRAMME

DU

SEJOUR DE L'AMBASSADEUR DE FRANCE ET MONSIEUR L'AMIRAL STOTZ

EN FORMOSE

Décembre 1928

Le 28. Vendredi

Arrivée à Kelung de S.E. Monsieur l'Ambassadeur
de Billy et Monsieur l'Amiral Stotz à
bord du " Jules Michelet ".

Nuit à bord du Croiseur.

Le 29. Samedi

Matinée:

Départ de l'Ambassadeur et sa suite, ainsi que
Monsieur l'Amiral et Monsieur le Commandant
du " Jules Michelet " pour Taihoku (par le
train de 8h. 30)

Arrivée à Taihoku (9 h. 14)

Entrée au " Railway Hôtel "

Visite au Gouverneur-Général à son palais (10 h.)

Visite au Commandant de l'armée de Formose, à son
quartier-général (10 h. 30)

Rentrée à l'Hôtel

Après-midi:

Déjeuné au Palais du Gouverneur-Général (12 h. 30)

Dép. Kelung 10. 35

Arr. Taihoku 11. 46

Soirée:

Banquet japonais, donné par M. le Secrétaire-Général
Kawarada, à " Ouméyashiki " (6 h.)

Retour à Kelung par le train de 10. 40 du soir.

Le 30. Décembre

Matinée:

Visite du Gouverneur-Général, du Commandant en chef
de l'Armée de Formose à Bord (10 h. 10)

Dép. Taihoku 9.

Arr. Kelung 10. 10

Cérémonie de transmission du cimetière de Kelung,
à 11 h.

Après-midi:

Partie de thé à bord du " Jules Michelet " de 2 h. 30
jusqu'à 5 h. 30.

Le 31. Lundi

Matinée:

Visite de la partie de M. l'Ambassadeur et M. l'Amiral
de ville de Taihoku et excursion aux environs de
la ville en automobile,

Dép. Kelung par le train de 8. 30

Arr. Taihoku par le train de 9. 14

De Taihoku en automobile,

Les lieux à visiter: ---

Temple de " Taiwan Jinja "

Hokutô, ville d'eaux thermales.

Sôzan, source d'eau thermale.

Lunch au " Pavillon de Prince "

Après-midi:

Excursion à Tamsui.

Soirée:

Départ de la partie de Monsieur l'Ambassadeur et Monsieur
l'Amiral pour leur voyage au Sud de l'île, en partant
de la gare de Taihoku 9 h. 28 du soir, suivant le
programme annexé.